

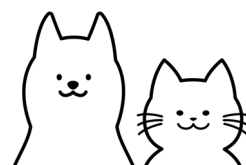
GUIDE BOOK

2025

日本獣医生命科学大学

附属動物医療センター

Veterinary Medical Teaching Hospital



- 理念・基本方針・沿革…………… 3
  - 学生の診療参加について…………… 4
- 特色ある16の診療科
  - 総合診療科…………… 5
  - 循環器科…………… 6
  - 腎臓科…………… 7
  - 呼吸器科…………… 8
  - 消化器科…………… 9
  - 内分泌科…………… 10
  - 神経科(脳神経内科)…………… 11
  - 腫瘍内科…………… 12
  - 行動治療科…………… 13
  - 皮膚科…………… 14
  - 放射線科…………… 15
  - 整形外科…………… 17
  - 産科・生殖器科…………… 19
  - 軟部外科…………… 20
  - 脳神経外科…………… 21
  - 眼科…………… 22
- 診療科以外の紹介
  - 麻酔科・動物看護部…………… 23
  - 獣医師卒後臨床研修制度…………… 24
- 予約の取り方・受診の流れ…………… 25
- 支払関連・フロアマップ…………… 26

日本獣医生命科学大学  
附属動物医療センター

このたび、学長としての職務に加え、本学附属動物医療センターの院長を兼任させていただくこととなりました。臨床や病院運営の現場に関しては経験不足の面もございますが、新たな視点を生かし、センターの発展に努めてまいります。

本学附属動物医療センターは、動物の健康と福祉向上を使命に掲げ、地域社会における動物医療の拠点として、地域の動物病院や市民の皆さまからの信頼を得られるよう、全スタッフが日々の診療に真摯に取り組んでおります。また、獣医師や愛玩動物看護師の教育・研究機関としても、専門的な人材育成と獣医学の発展に貢献してまいりました。

今後は、学長としての大学運営と、院長としての動物医療センターの管理・運営を一体的に推進し、教育・研究・臨床のさらなる連携を強化するとともに、市民に開かれた病院として、高度な獣医療の提供、迅速な診療体制の整備、サービスの充実を図るべく、人員配置や施設・設備・環境の改善に取り組んでいく所存です。

引き続き、教職員・関係者の皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

附属動物医療センター  
院長 鈴木 浩悦  
(日本獣医生命科学大学 学長)



(写真左から)  
動物看護科長 宮田 拓馬  
副院長 宮川 優一  
院長 鈴木 浩悦  
内科系診療科長 弥吉 直子  
外科系診療科長 原田 恭治

——病めるすべての動物のために、  
動物と飼育者の立場に立ち、高度先端の知識  
と技術をもって、最善の獣医療を提供します。  
同時に、教育施設として良き獣医療人の育成  
に努めます。



### 基本方針

動物と飼育者の権利を尊重し、動物と飼育者の立場に立った獣医療を実施します。

動物の安全に最善の努力を払います。

高度最先端獣医療を提供する動物医療機関としての役割を担い臨床研究に努めます。

人間性豊かな獣医療従事者の育成に努めます。

国民の健康のため公衆衛生を推進します。

地域の獣医療・動物の福祉に貢献するため、基幹診療施設としての役割を担います。

### 学生の診療参加について

日本獣医生命科学大学(以下、本学)付属動物医療センター(以下、医療センター)は、高度獣医療を提供する二次診療施設であると同時に、将来獣医師となる獣医学生を教育する教育病院であります。文部科学省の主導の基、2016年度より、全国の大学教育病院において獣医学生(5-6年生)が実際の診療に参加する『総合参加型臨床実習(以下、参加型実習)』が必修科目として開始される運びとなりました(同様の制度は医学部の大学病院においても既に施行されております)。つきましてはこれに伴い、本学医療センターにおいても獣医学生が診療に参加することになります。

また「診療に参加する」とありますが、その診療参加範囲(学生が行うこと・行えること)には、以下の様な制限があり、特に動物に対する強い侵襲性のある医療行為(注射による投薬、麻酔や手術など)については行われません。

#### 学生が実際に参加する診療範囲

- 獣医師が行う問診前の予診(名前、性別、生年月日などの個人情報の確認やこれまでのワクチン、フィラリア予防の有無、過去の手術や病気、投薬に関する項目。病院や調剤薬局の受付で記入するアンケート調査のようなもの)の聴取。
- 動物(患者)の各種検査時・処置時の保定や補助。
- 採取された検体(血液・尿・糞便など)の取扱いおよび検査(診断は獣医師が行う)。
- 指導教員の直接指導および監視下での血液・尿・糞便の採取。
- 全身麻酔・局所麻酔の際の動物の保定や補助。
- 検査部位・手術部位の毛刈りや消毒。
- 手術時に手術道具を渡したり、動物の身体を支える役割(器械助手、第二助手)。  
※「保定」とは患者さんを支えたり、おさえたりすることを指します。  
※「補助」とは、実際の検査を行っている獣医師に検査道具を渡したり、採取した検体(血液など)を注射筒から他の容器に移し替える等の行為を指します。  
※指導教員が動物の性格や病状および学生個人の能力を適切に判断して行います。  
※なお、「指導教員」とは本学正規職員(助手以上)の獣医師を指し、研修獣医師や研究生、大学院生ではありません。

以下の項目については学生が行うことはありません。

- カルテへの記載。
- 検査結果の判断や診断。
- ご家族に対する病状の説明や保健衛生指導など。
- 上記で示されている以外の診療行為。
- 救急患者における身体検査や応急処置。

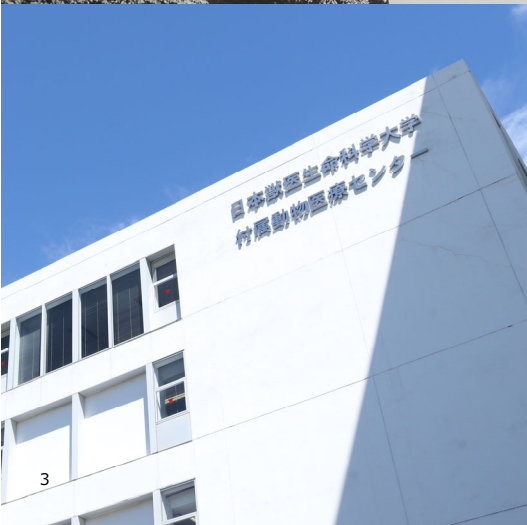
本学医療センターは、皆様の大事な家族の一員である動物達を診療する一方で、教育病院としての使命を果たす必要があります。獣医学生の「参加型実習」へのご理解とご協力をいただきたくお願い申し上げます。

また、大学病院は研究教育施設であるため、診療で得られた検査材料やデータ等は教育・研究目的(授業や研究・学会発表等)に利用させていただきたく思います。その際、個人情報等が公表されることは一切ございません。併せてご回答くださいますよう、よろしくお願いいたします。

日本獣医生命科学大学付属動物医療センター 院長

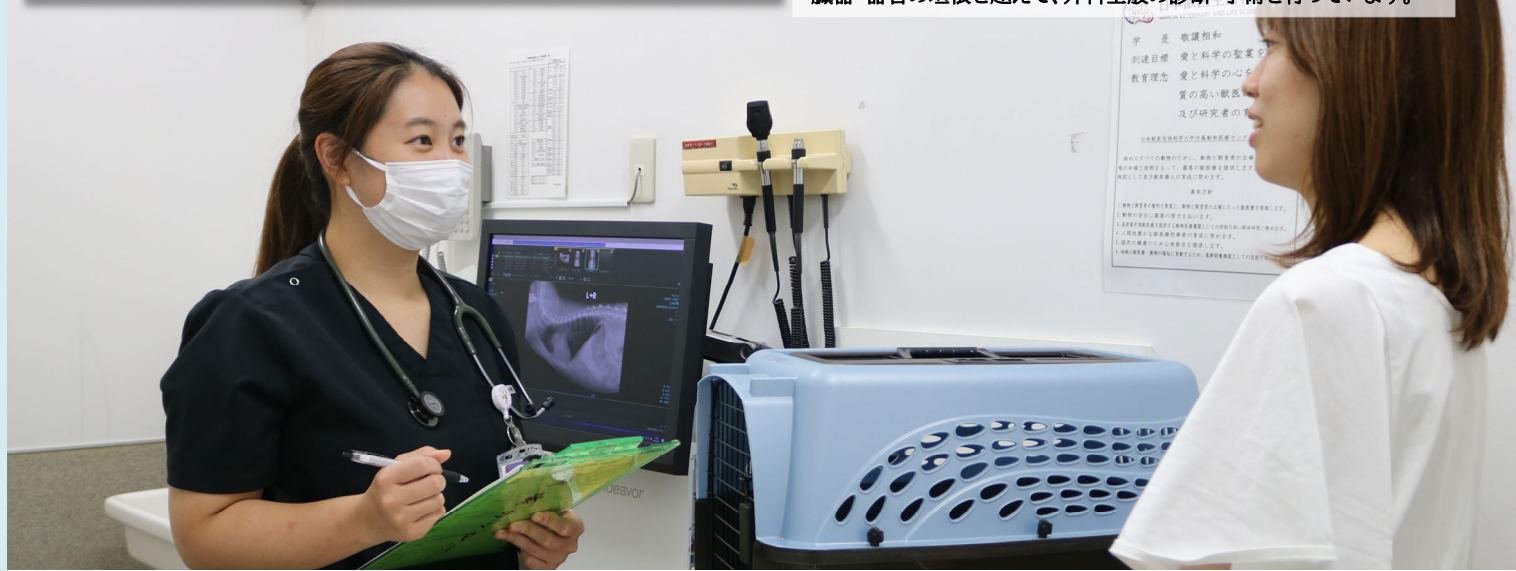
### 沿革

- ・1938(昭和13)年4月 日本高等獣医学校設置 附属家畜病院開設
- ・1945(昭和20)年1月 日本獣医畜産専門学校と改称
- ・1949(昭和24)年2月 大学に昇格 日本獣医畜産大学と改称
- ・1984(昭和59)年7月 新校舎(D棟)が竣工し、附属家畜病院を移設
- ・2003(平成15)年6月 「付属動物医療センター(C棟)」が竣工  
獣医学部の付属動物医療センターに改組
- ・2006(平成18)年4月 日本獣医生命科学大学と改称
- ・2011(平成23)年8月 大学の付属動物医療センターに改組

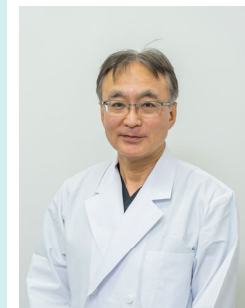


No. 1 総合診療科  
(一般内科・一般外科)

一般内科：  
診断が困難な紹介症例を中心に、毎日、外来を担当しています。  
一般外科：  
臓器・器官の垣根を越えて、外科全般の診断・手術を行っています。



Staff 獣医師



助教 清水 孝一

所属学会：日本獣医循環器学会、  
日本循環器学会、  
日本心エコー学会 他

年間診療件数：372件(2024年度実績)  
その他実施している診療・業務等：  
学生実習、研修獣医師の指導  
よく紹介されている疾患や症例：  
心臓弁膜症、心筋症、先天性心奇形、呼吸器疾患、神経疾患、がん疾患、消化器疾患、整形疾患等  
得意とする診療分野・手技・処置等：  
日本獣医循環器学会認定医。超音波検査による診断。画像診断や外科手術前の麻酔前心エコー図検査によるリスク判定。

コメント：紹介状や飼い主様のご意向を考慮して診断および治療方針を検討していきたいと思ひます。その際、必要であれば他科の専門診療医の意見を参考にさせていただき飼い主様と相談をしながらすすめていくように心がけています。また、そのように連携がとれることは当施設の特徴だと思ひます。

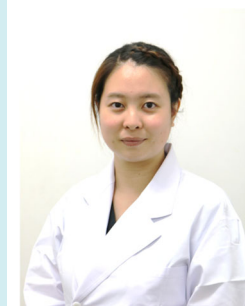


助教 浅田 李佳子

所属学会：獣医神経病学会

年間診療件数：333件(2024年度実績)  
その他実施している診療・業務等：  
MRI/CT検査(神経疾患症例中心)  
よく紹介されている疾患や症例：  
脳神経疾患全般、一般内科疾患(複数科の受診が必要な主訴や不定愁訴など)  
得意とする診療分野・手技・処置等：  
神経疾患全般の検査・診断・治療が可能です(MRI検査や脳脊髄液検査、脳波検査、その他電気生理検査、内科治療、脳外科治療など)。脳炎の急性期治療やてんかん重積などの入院治療対応も実施可能です。一般内科・外科では、血液検査やレントゲン、超音波などの一般的な検査を当科で実施し、必要に応じて複数科へのコンサルテーションを実施することで患者様と飼い主様の負担を減らす診療を心がけています。

コメント：当日でも診療受け入れが可能な場合がありますので緊急性の高い症例などもご相談ください。



助教 齊藤 千祥

年間診療件数：2025年より就任  
その他実施している診療・業務等：  
麻酔補助や入院患者の処置  
よく紹介されている疾患や症例：  
原因不明の疾患や複数疾患が疑われる症例、その他急な対応が必要な症例など

コメント：複数の検査結果から総合的に判断し、患者さんにとってより良い治療を行えるよう心掛けています。また必要があれば、専門科に紹介することがあります。

No. 2 循環器科  
内科系

先天性および後天性心疾患や不整脈の診断と治療を行っています。  
レントゲン検査、心電図検査や心エコー検査などにより、詳細な診断を行って治療方針を立てています。



Staff 獣医師



教授 竹村 直行

所属学会：  
日本獣医循環器学会、  
日本獣医腎臓尿科学会 他

年間診療件数：138件(2024年度実績)  
よく紹介されている疾患や症例：  
僧帽弁閉鎖不全症、各種心筋症、不整脈、心臓奇形  
得意とする診療分野・手技・処置等：  
循環器疾患の診療を行っています。家族からしっかりとお話しを伺い、徹底した身体診察を行い、本当に必要な検査だけを家族に提案するよう心がけています。また、家族のご希望に応じて、定期的なフォローアップも積極的にを行っています。

コメント：診察結果などは診察の翌日(遅くとも翌々日)に文書でご連絡しています。また、紹介病院で特にレントゲン検査と心エコー図検査を実施されているのであれば、その画像も紹介状と共に添付して頂けると助かります。



講師 鈴木 亮平

所属学会：  
日本獣医循環器学会、  
日本獣医心エコー学会、  
日本獣医内科学アカデミー 他

年間診療件数：417件(2024年度実績)  
その他実施している診療・業務等：  
他診療科に来院した症例における麻酔前心臓検査、周術期及び入院症例における心臓検査、循環器症例コンサルテーション、院内ケースカンファレンス、関連学会や査読付き海外学術誌における症例発表及び研究論文の報告、紹介症例に対する報告書送付による一次診療施設との診療連携及び地域医療への貢献  
よく紹介されている疾患や症例：  
犬及び猫の循環器疾患全般(疑いを含む)(僧帽弁閉鎖不全症、肥大型心筋症、拘束型心筋症、肺高血圧症、先天性疾患、不整脈、血栓症、心臓腫瘍、心タンポナーデ、フィラリア症など)の診断、病態及び重症度評価、治療(心臓カテーテル治療やペースメーカー対応を含む)、予後評価、循環器疾患併発症例の総合的病態評価、循環器外科適応の判断、心雑音の精査、心臓健診、麻酔前心臓評価、急性心不全に対する集中治療及び維持管理(人工呼吸管理治療対応)、慢性心不全の原因鑑別や治療方針の策定相談など  
得意とする診療分野・手技・処置等：  
高度循環器画像診断(心臓エコー検査、血管造影心臓CT検査など)、低侵襲心臓カテーテル治療(動脈管開存症カテーテル閉鎖術、肺動脈狭窄症バルーン弁形成術およびステント留置術、フィラリア虫体カテーテル摘出術など)、恒久的ペースメーカー埋込術(平日であれば緊急対応可能)など

コメント：循環器科では、個々の症例で異なることの多い病態や重症度評価を患者毎に適切に把握し、テーラーメイドな治療戦略や予後評価を実施することを心がけています。とくに、必要な患者さまでは、高度な循環器画像診断を積極的に活用し詳細な循環器評価を適切に実施いたします。また近年主流な治療方法になりつつある心臓カテーテル治療に対応しており、低侵襲かつ安全な、そして有効な治療選択肢を幅広く患者さまに提供しております。さらに詳細な検査報告書の送付による一次診療施設さまとの診療連携および患者さまフォローアップ対応も重視しております。よろしければぜひご活用ください。

No. 3 腎臓科 内科系

血液や尿の検査、X線、超音波検査、腎機能検査などを通じて、さまざまな腎臓病の診断・治療を行っています。



Staff 獣医師

年間診療件数:585件(2024年度実績)

その他実施している診療・業務等:

血液透析、学生実習、研究生の診療参加による教育・研究の実施と補助

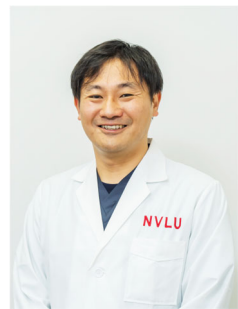
よく紹介されている疾患や症例:

犬および猫の慢性腎臓病の精査・治療方針の決定(腎盂腎炎、先天性腎疾患、多発性嚢胞腎等が多い)、急性腎障害の救急対応(血液透析を含む)、尿管結石等の尿路結石の診断および治療・外科手術の適応の有無の判断、猫の特発性膀胱炎の診断および治療方針の策定

得意とする診療分野・手技・処置等:

腎泌尿器疾患の内科全般は得意とする。輸液療法、酸塩基平衡異常は腎疾患と関わる事が多いため、得意とはしている。腎疾患に併発することの多い、膵炎などの消化器疾患も同時に診ることが多い。急性腎障害に対する血液透析の実施、プランの作成や急性腎障害で生じる全身性炎症反応症候群などの対応

コメント:急性腎障害の治療対応は入院集中管理になることが多く、より迅速に対応する必要があります。これらの疾患に対しては診療日には関係なく、救急対応として受け入れることが可能です(土日や夜間は難しいですが)。慢性腎臓病に対しては、その原因の精査、長期的な管理法の判断は難しいことが多いですが、経過を含めて連携して行っていければと考えております。また、猫の血尿などの下部尿路疾患は非常に多い疾患ではありますが、その最も一般的な原因である特発性膀胱炎はまだ十分には知られておりません。診断・治療判断にお困りのときには、ご相談いただければと思います。



准教授 宮川 優一

所属学会:日本獣医学会(評議員)、日本獣医腎臓病学会(理事)、日本獣医循環器学会、日本ペット栄養学会

No. 4 呼吸器科 内科系

鼻から肺まで、呼吸器全般の疾患に対する診断と治療を行っています。



Staff 獣医師

年間診療件数:380件(2024年度実績)

年間に視鏡件数:44件(2024年度実績)

その他実施している診療・業務等:

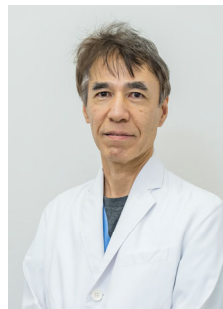
授業、実習、各種委員会委員等

よく紹介されている疾患や症例:

呼吸器全般

得意とする診療分野・手技・処置等:

呼吸器内視鏡検査全般



教授 藤田 道郎

所属学会:日本獣医学会、日本獣医画像診断学会、日本獣医がん学会、日本放射線腫瘍学会

コメント:呼吸器疾患の確定診断には麻酔下での検査が必要となることが多々あります。また、慢性的な鼻汁排出や咳については自身が考える診断や治療方法が正しいか判断に迷うことがあると思います。そのような悩みを抱えている場合は、気軽に紹介ください。先生と飼主と3方向から患者を支えるお手伝いをしていきたいと考えています。



准教授 藤原 亜紀

所属学会:AiCVIM(アジア獣医内科学協会)、AiSVIM(アジア獣医内科学会)、日本獣医学会(評議員)、日本ねこ医学会(学術理事)、日本獣医内科学アカデミー(実行委員)、日本獣医がん学会(代議員、内科療法委員)

年間診療件数:264件(2023年度実績)

年間に視鏡件数:50件(2023年度実績)

その他実施している診療・業務:

大学院生・研究生(いずれも獣医師)の診療参加および協力、学生実習

よく紹介されている疾患や症例:

犬と猫の呼吸器疾患(鼻汁、鼻出血、咳、呼吸がはやい、呼吸が苦しう、呼吸時に音がするなどの徴候)

得意とする診療分野・手技・処置等:

特に猫の呼吸器疾患、呼吸器腫瘍の紹介をいただくことが多いですが、呼吸器疾患全般の診察を行うことができます。精査には全身麻酔下での内視鏡やCT/MRIなどの画像検査が必要となることがありますが、まずは麻酔を用いない非侵襲的な複数の検査(問診、身体検査、血液検査、X線検査、X線透視検査、超音波検査)によって疾患の絞り込みや予測を行い、ご家族と相談の後に麻酔処置下での精査を行うかどうか決定します。特に研究面でも注力している、喉頭や肺の呼吸器超音波検査を得意としています。麻酔下での検査・処置としては内視鏡検査(鼻腔、鼻咽頭、喉頭、気管、気管支)、内視鏡下での生検・鼻腔洗浄・気管支肺泡洗浄・バルーン拡張、超音波ガイド下細胞診、CT/MRIの評価など、外科処置以外のものは全て行います。短頭種気道症候群や肺葉切除など、外科介入が必要な場合には軟部外科と連携して治療を実施します。また呼吸器腫瘍に対する年齢や併発疾患などを考慮した個別化治療プランニングを得意とし、外科処置や放射線療法が必要な場合には他科と連携しますが、診断から治療(化学療法)まで本診療科で全て行うことができます。

コメント:初診当日に希望に応じて麻酔下での検査(内視鏡、CT/MRI)が実施できるように体制を整えることができますので、当日に検査ご希望の場合やご相談などがあれば受付までお問い合わせください。なるべくご家族や、わんちゃんねこさんの来院の負担が少なくなるように診療を進めております。また予約が取りにくくご迷惑をおかけしておりますが、担当指名がある場合には受付にてお申し付けください。

専門治療紹介① 血液透析治療

本動物医療センターでは、動物用血液透析を行っています。

腎臓の機能が過度に低下した場合、生命維持が困難になります。腎臓の機能が低下し、生体に種々の弊害が起こることを尿毒症といいます。血液透析はこの尿毒症を一時的に改善させる手段です。人間では、血液透析を慢性腎不全の患者様でも広く行われている治療ですが、犬猫では主に急性腎不全という回復の見込みがある腎不全を適用としています。急性腎不全で亡くなってしまう患者様は、腎臓の機能が回復する前に尿毒症によって生命を維持できなくなってしまいます。血液透析では、障害された腎臓の代わりに尿毒症を起こす物質を血液から浄化したり、体内の水分を調節したりし、腎臓の機能が自己回復するまで尿毒症を軽減して生命を維持する治療になります。また、急性腎不全以外に、一部の中毒も犬猫の血液透析の適用です。

一血液透析治療の対象となる症例

急性腎不全、一部の中毒症 など

一治療の流れ

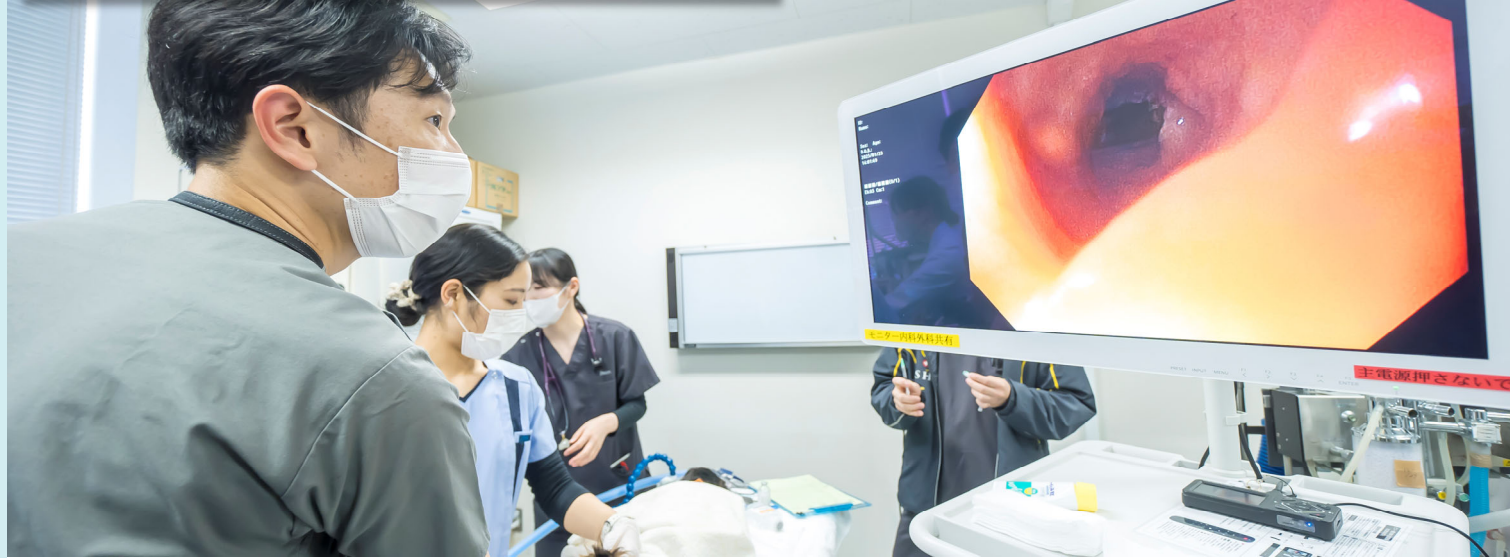
担当医が急性腎不全の原因や状態に応じて血液透析の適用かを判断し、ご家族にご提案いたします。基本的に血液透析は入院下での治療となります。なお、血液の出し入れに必要なカテーテルの挿入には全身麻酔が必要となります。通常、4~5時間の透析を週に3~4回実施しますが、患者様によって回数や頻度は異なります。



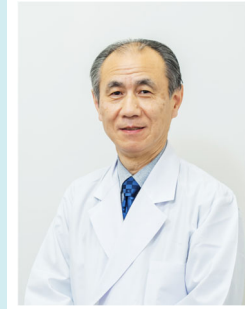
▲血液透析装置

No. 5 消化器科 内科系

消化器疾患を扱う診療科で、慢性嘔吐や慢性下痢症の症状を示す患者が主な対象です。内視鏡による特種検査・治療を行っています。



Staff 獣医師



教授 松本 浩毅  
所属学会：日本獣医学会(評議員)、日本ペット栄養学会(理事)、日本獣医管理科学会(理事長) 他

年間診療件数：249件(2024年度実績)  
年間内視鏡件数：15件(2024年度実績)  
その他実施している診療・業務等：  
内視鏡を用いた検査と治療、学生実習、研究生の臨床指導  
よく紹介されている疾患や症例：  
炎症性腸症、膵炎、消化器腫瘍  
得意とする診療分野・手技・処置等：  
消化器疾患の内科診療、内視鏡検査、超音波検査、糞移植治療、内視鏡下での異物摘出、腫瘍切除、APC処置

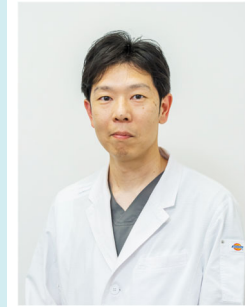
コメント：消化器症状はあらゆる疾患で現れる可能性が高くなります。消化器疾患と他の疾患の見極めに悩む場合には遠慮なくご相談ください。



教授 石岡 克己  
所属学会：日本動物看護学会(理事長)、日本獣医学会(評議員、学会誌編集委員)、日本獣医臨床病理学会(理事)、日本ペット栄養学会(学会誌編集委員)

年間診療件数：50件(2024年度実績)  
よく紹介されている疾患や症例：  
慢性腸症の評価と治療方針の決定  
得意とする診療分野・手技・処置等：  
嘔吐、下痢などの消化器症状を主徴とする症例の診断、消化器内視鏡検査は全般的に得意とし、炎症性疾患(免疫抑制薬反応性腸症など)や腫瘍性疾患(消化器型リンパ腫、胃腺癌など)の評価を多く行っています。

コメント：必要と判断した際には、初診時の午後にそのまま内視鏡検査を実施することも多いので、当日は絶食でご紹介いただけますと幸いです。診断結果や治療方針は、FAXやe-mailにて連絡いたします。方針が定まった時点でいったん紹介病院様にお返しし、連絡を取り合いながら進めることが多いです。なお、腹腔内腫瘍など明らかに消化器以外の問題による症例や原因不明の食欲不振は、総合診療科が適していると思います。また、低蛋白血症の症例は事前に尿検査を実施いただくことで、消化器科と腎臓科のどちらが適切か判断できる場合があると思います。



准教授 手嶋 隆洋  
所属学会：日本獣医学会(評議員)、日本獣医再生医療学会(幹事)、日本再生医療学会、日本細胞外小胞学会

年間診療件数：358件(2024年度実績)  
年間内視鏡件数：38件(2024年度実績)  
その他実施している診療・業務等：学生実習、臨床研修指導、臨床研究  
よく紹介されている疾患や症例：  
犬及び猫の慢性腸症の診断と治療、犬の結直腸ポリープの診断と治療、犬及び猫の胆管道系疾患の診断と治療  
得意とする診療分野・手技・処置等：  
犬及び猫の消化器疾患全般。結直腸ポリープに対するポリペクトミーとAPCを利用した内視鏡下治療  
犬の治療抵抗性腸症に対する幹細胞治療

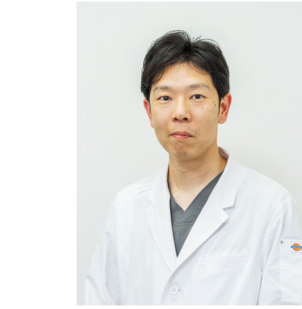
コメント：犬や猫の「慢性腸症」の診断や治療方針の決定には内視鏡検査の実施が推奨されます。そのため、可能な限り受診日当日に対応するよう努めています。また、「犬の治療抵抗性腸症」に対する幹細胞(MSC)治療を実施しています。プレドニゾロン等の免疫抑制薬に対する治療反応の悪い症例が対象となりますので、治療選択肢のひとつとしてご検討・ご相談ください。

No. 6 内分泌科 内科系

糖尿病、副腎疾患および甲状腺疾患など内分泌疾患の診断と治療を行っています。



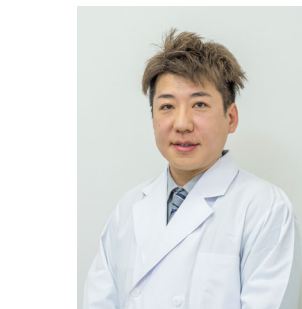
Staff 獣医師



准教授 手嶋 隆洋  
所属学会：日本獣医学会(評議員)、日本獣医再生医療学会(幹事)、日本再生医療学会、日本細胞外小胞学会

年間診療件数：450件(2024年度実績)  
年間内視鏡件数：38件(2024年度実績)  
その他実施している診療・業務等：内分泌科  
よく紹介されている疾患や症例：  
犬及び猫の慢性腸症の診断と治療、犬の結直腸ポリープの診断と治療、犬及び猫の胆管道系疾患の診断と治療  
得意とする診療分野・手技・処置等：  
犬及び猫の消化器疾患全般。結直腸ポリープに対するポリペクトミーとAPCを利用した内視鏡下治療。  
犬の治療抵抗性腸症に対する幹細胞治療。

コメント：犬や猫の「慢性腸症」の診断や治療方針の決定には内視鏡検査の実施が推奨されます。そのため、可能な限り受診日当日に対応するよう努めています。また、「犬の治療抵抗性腸症」に対する幹細胞(MSC)治療を実施しています。プレドニゾロン等の免疫抑制薬に対する治療反応の悪い症例が対象となりますので、治療選択肢のひとつとしてご検討・ご相談ください。



准教授 森 昭博  
所属学会：日本獣医学会、日本ペット栄養学会

年間診療件数：342件(2024年度実績)  
その他実施している診療・業務等：  
フリースタイルリブレの設置とご自宅での血糖管理方法の指導  
よく紹介されている疾患や症例：  
糖尿病のインスリンによる血糖コントロール、糖尿病性ケトアシドーシス、インスリンノーマ、甲状腺機能亢進症の外科適応、甲状腺機能低下症、クッシング症候群、アジソン病。高カルシウム血症、低カルシウム血症など。上記の病気が何らかの疾患が併発している場合、原因不明の低血糖、原因不明の多飲多尿など。  
得意とする診療分野・手技・処置等：  
糖尿病の血糖コントロールを、フリースタイルリブレを用いて行うことを得意としています。またその症例に合わせた適切なインスリンの選択をしていきます。アジソン病のセカンドオピニオンやクッシング症候群だけども本当に治療が必要なのか？などの症例をご紹介いただくことが多いです。多飲多尿の鑑別診断を行い、水制限試験を行うべき症例を選別し、心因性多飲症や尿崩症の診断も行っています。

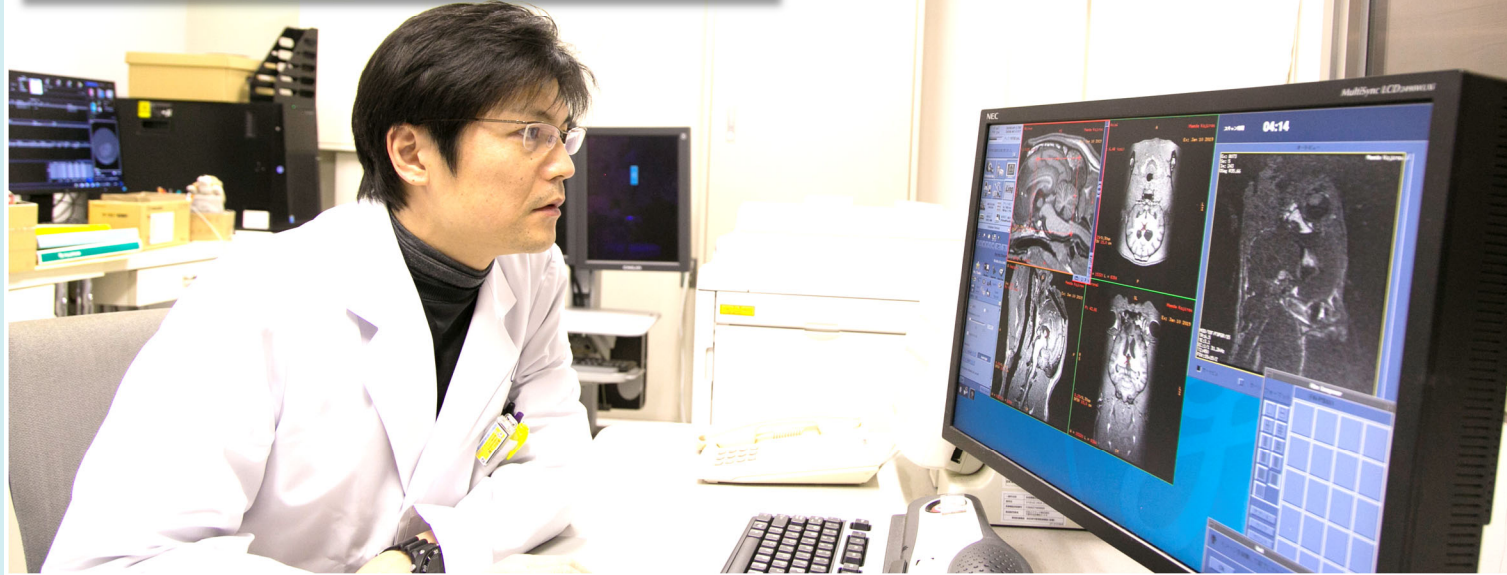
コメント：大病院の中では比較的長期で経過を見ていくことが多い診療科となります。そのため、飼い主様に寄り添った診療を心がけています。内分泌疾患の診断がつかない場合や、この治療でよいのか？などセカンドオピニオンを聞きたい時などにご紹介いただければと思います。

臨床研究 犬の難治性炎症性腸疾患に対する幹細胞治療

炎症性腸疾患(IBD)は慢性的な下痢や嘔吐、食欲不振といった症状がみられる消化器疾患です。難治性IBDに対する有効な治療法は確立されていません。間葉系幹細胞(MSC)は抗炎症作用や免疫調節作用に優れた機能を発揮する幹細胞のひとつです。これまでの研究から、ヒトを始め犬や猫などの様々な疾患において、その治療効果が期待されています。本動物医療センター消化器科では、犬の難治性IBDに対する幹細胞治療の臨床研究を実施しております。

No. 7 神経科(脳神経内科) 内科系

てんかんや脳脊髄炎、筋炎などの神経疾患を扱っています。



Staff 獣医師

年間診療件数:337件(2024年度実績)

その他実施している診療・業務等:

神経科(脳神経内科)、脳波検、脳脊髄液検査

よく紹介されている疾患や症例:

てんかん、脳腫瘍、脳炎、認知症などの脳疾患

得意とする診療分野・手技・処置等:

脳波、画像を駆使したてんかんの診断と薬剤抵抗性てんかんに対するてんかん外科、脳腫瘍の診断と手術、脳炎の診断と治療といった脳疾患の診療を中心に様々な神経疾患の診療を行っています。

コメント:判りにくい(と思われる)神経疾患を判りやすく説明し、飼い主の納得のいく診断・治療を行っています。脳外科手術が得意ですが、なんでも手術というわけではありません。内科と外科のバランス、患者の状態、飼い主の要望などを考慮した診断・治療を提案していきます。

長谷川教授が担当する脳神経科(脳神経外科・神経科)外来診察日は、**金曜日午前のみ**です。初診予約についての詳細は、P.27をご参照ください。

年間診療件数:333件(2024年度実績)

その他実施している診療・業務等:

MRI/CT検査(神経疾患症例中心)

よく紹介されている疾患や症例:

脳神経疾患全般、一般内科疾患(複数科の受診が必要な主訴や不定愁訴など)

得意とする診療分野・手技・処置等:

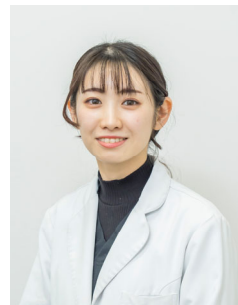
神経疾患全般の検査・診断・治療が可能です(MRI検査や脳脊髄液検査、脳波検査、その他電気生理検査、内科治療、脳外科治療など)。脳炎の急性期治療やてんかん重積などの入院治療対応も実施可能です。一般内科・外科では、血液検査やレントゲン、超音波などの一般的な検査を当科で実施し、必要に応じて複数科へのコンサルテーションを実施することで患者と飼い主様の負担を減らす診療を心がけています。

コメント:当日でも診療受け入れが可能な場合がありますので緊急性の高い症例などもご相談ください。



教授 長谷川 大輔

所属学会: 獣医神経病学会(理事)、日本てんかん学会(評議員)、日本獣医学会(評議員)、アジア獣医内科学会(神経科専門医)、日本てんかん外科学会



助教 浅田 李佳子

所属学会: 獣医神経病学会

No. 8 腫瘍内科 内科系

腫瘍性疾患の診断と抗がん剤治療を行っています。



Staff 獣医師

年間診療件数:277件(2024年度実績)

その他実施している診療・業務等:細胞診検査、骨髄検査

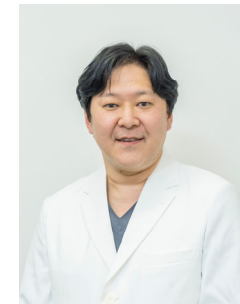
よく紹介されている疾患や症例:

犬及び猫の悪性腫瘍の精査・治療方針の決定、悪性腫瘍の手術後化学療法(骨肉腫や肛門嚢アポクリン腺癌など)、血液腫瘍の化学療法(リンパ腫、肥満細胞腫、組織球性肉腫など)

得意とする診療分野・手技・処置等:

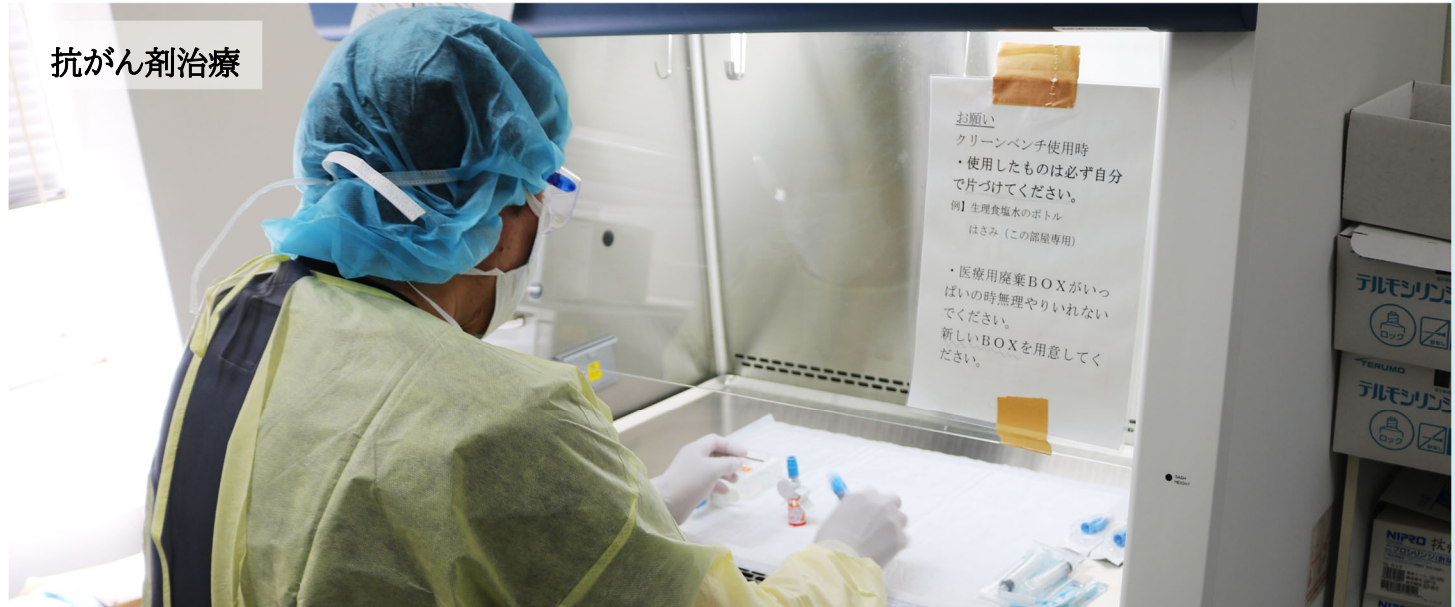
細胞診検査の経験が豊富なため、様々な悪性腫瘍疾患の臨牀的診断とそれに基づく追加検査や治療法の選択を得意としています。また、常に外科担当や放射線治療担当とも密にコミュニケーションを取っているため、様々な悪性腫瘍疾患に対して集学的な治療を素早く実施することが出来ます。骨髄検査も得意としており、診断に苦慮するような血液病の精査や治療も担当しています。

コメント:近年、飼育環境の向上と予防医学の発展により伴侶動物の寿命が延び、悪性腫瘍疾患が増加しています。本学付属動物医療センターでは、経験豊かな外科医や放射線治療医がおり、悪性腫瘍疾患に対し最先端の集学的治療を実施することが出来ます。しかしながら、悪性腫瘍疾患に罹患する動物やそのご家族にとって必ずしも積極的な治療が最善とは限りません。これまでに得た知識と経験を活かし、症例ごとに異なる各種治療法におけるメリットとデメリットをご家族の方にしっかりと伝え、十分な時間をかけてコミュニケーションをとり、ご家族の方が納得した治療法を選択できるようにすることを第一に心がけています。



講師 田村 恭一

所属学会: 日本獣医学会、日本獣医臨床病理学会、日本がん分子標的治療学会



抗がん剤治療

臨床研究 犬のグリオーマ(神経膠腫)に対するカルムスチン(BCNU) 脳内留置用剤の有用性と安全性評価\*2023年クラウドファンディング案件

2023年4月~5月の間、クラウドファンディング「犬と飼い主の負担を減らすために。犬の脳腫瘍治療に新たな一手を！」にて多くの飼い主、獣医師、動物病院、あるいは一般の方から広くご寄付頂いた研究資金による臨床研究です。

この研究では腫瘍摘出の手術の際に、脳の中の腫瘍が存在していた場所にカルムスチン(BCNU)という名前の薄いラムネ状の抗がん剤を設置して、その治療効果と副作用などの安全性等を確認する研究です。この治療法は既にヒトの悪性グリオーマで行われているものですが、これまで犬で実施された報告が無く、この治療を行う事で、その後の放射線治療までの期間を遅らせる、あるいは放射線治療を回避できる可能性などの期待ができます。

No. 9 行動治療科  
内科系

動物たちの攻撃行動、破壊行動、不安行動、恐怖症や常同障害といった問題行動を診断・治療を行っています。しつけの問題や飼い方相談などにも対応しています。



Staff 獣医師



**教授 水越 美奈**  
所属学会: 日本獣医学会(評議員)、  
日本獣医動物行動学会(会長)、  
人と動物の関係学会(評議員)、  
日本動物病院協会(家庭犬しつけインストラクター養成講座委員長)、  
日本獣医師会(動物福祉愛護委員)

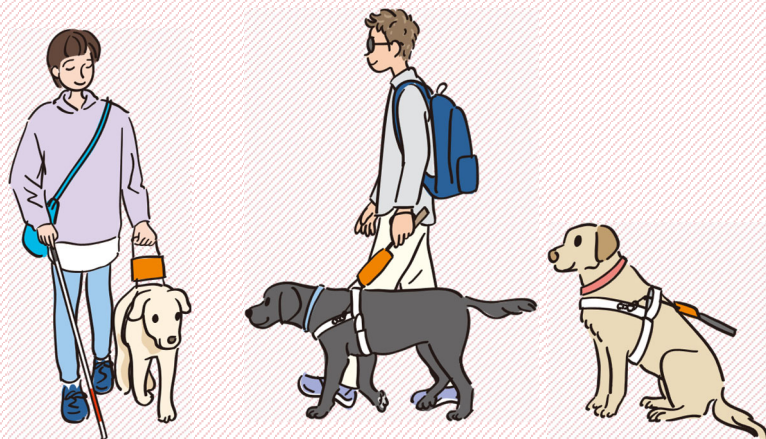
年間診療件数: 80件(2024年度実績)  
その他実施している診療・業務等:  
学生実習の診療参加による教育・研究の実施と補助  
よく紹介されている疾患や症例:  
犬及び猫の問題行動の診断および治療・薬物治療適応の判断、治療方針の策定。神経疾患などの疾病との鑑別。常同障害(自傷を含む)、攻撃行動の相談が多い。  
得意とする診療分野・手技・処置等:  
犬および猫の問題行動の診断および治療全般を得意とする。家庭犬しつけインストラクターの資格(日本動物病院協会、CPDT-KA)も所持しているため、飼い方・育て方全般やしつけ、問題行動の予防の指導(環境整備も含む)を得意とする。

コメント: 大学病院という二次診療施設、高度診療施設というイメージがあるかと思いますが、症状が深刻になってからでは治療が困難になり、飼い主が飼育継続をあきらめてしまうだけでなく、身体的な疾病の治療や予防も困難になってしまうことが多いです。「こんなことで紹介して良いの?」というような状況でもぜひ紹介していただければと思います。また最近では高齢者が飼育する、野犬などの保護犬を飼育するなど飼育に苦勞されているケースも多くなっているように思います。深刻な問題行動ではなくても、このような犬猫の飼育にお困りの飼い主様についてもご紹介いただければと思います。

Information

補助犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)への診療の提供

敬讓相和の学是のもと、日本獣医生命科学大学附属動物医療センターのポリシーである「病めるすべての動物の為に高度先端の知識と技術をもって最善の獣医療を提供」して、公共、地域へ貢献するとともに、獣医師卒業臨床研修の一環としても、障害者への補助に活躍する犬たちのサポートの一端を担うことを目的として補助犬の診療や健康管理のお手伝いを行っています。



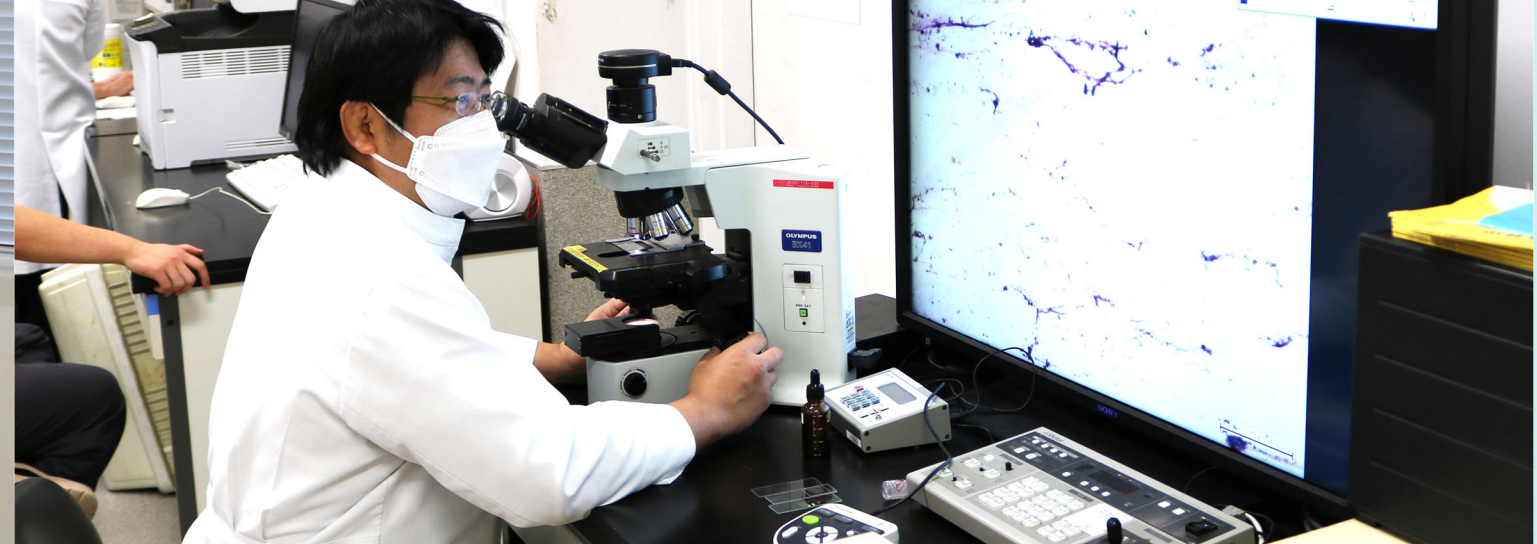
診療体制

- 受付時間  
9:00~16:00
- 診療日・診療時間  
各診療科の体制(診療担当表)のとおり
- 診療体制  
予約制

【お問い合わせ先】  
日本獣医生命科学大学 附属動物医療センター  
〒180-8602 東京都武蔵野市境南町1-7-1  
TEL: 0422-90-4000(直通)

No. 10 皮膚科  
内科系

あらゆる皮膚疾患に対して診断・治療を行っています。皮膚病理学的診断や、オトスコープも含めて幅広く対応しています。



Staff 獣医師



**准教授 百田 豊**  
所属学会: 日本獣医学会、動物医学臨床研究会、日本獣医皮膚科学会、獣医耳科研究会

年間診療件数: 171件(2024年度実績)  
その他実施している診療・業務等:  
耳科、学生実習、研究生の診療参加による教育・研究の実施と補助  
よく紹介されている疾患や症例:

皮膚疾患(小型犬の犬アトピー性皮膚炎、抗そう痒剤に効果がない犬のそう痒性疾患、猫過敏性皮膚炎(猫アトピー性皮膚炎)、犬及び猫の免疫介在性皮膚炎)及び耳道疾患(犬の外耳炎及び中耳炎、猫の中耳炎)  
得意とする診療分野・手技・処置等:  
抗そう痒剤の服用に効果認めない、難治性で苔癬化をとともう犬アトピー性皮膚炎の治療。画像診断をとともう耳内視鏡検査及び処置(画像診断は画像診断科が対応)。適切な耳道の評価に基づく外科手術の提供(外科手術は軟部外科が対応)

コメント: 動物のそう痒性疾患は診断がむずかしくないのに関わらず、治療そのものに難渋することが多くあります。理由は、飼い主の気づかない動物側の問題点、飼い主が家庭で対応できていない皮膚病の維持管理、動物病院と飼い主がともに対応できる治療法の提案と役割分担の選択に、想定外の困難さがあります。そのような教科書や学会での皮膚病教育では学ぶことができない個別の問題点をクリアにすることが、紹介を受けた多くの症例または看護動物の治療の主体となっています。症状の重症度に関わりなく、飼い主の満足が得られなくて、標準的な治療では手がかりの薄い皮膚病の動物の紹介もお待ちしています。また、標準的な治療の範囲から外れる皮膚病の治療の手がかりを学びたい獣医師および動物看護師に対して、担当教員が主催する「動物看護皮膚美容研究会」で学ぶ機会を提供しています。こちらもぜひご利用ください。

Information

献血にご協力ください ~つなげよう"いのち"~

附属動物医療センターでは、病気や怪我で治療中の犬猫のために、血液を提供していただける「ワンちゃん・ネコちゃん」を募集しています。  
健康なドナー動物から定期的に献血をさせていただき、輸血を必要としている患者さまに提供しています。  
全ての動物たちは皆さまの優しさと行動力に支えられています。  
ご協力いただけるドナーのご家族と動物たちをお待ちしております。

皆さまのあたたかいご協力  
よろしく願いいたします。



募集要項

【犬】  
年齢: 1~8歳  
性別: ♂...自然交配経験・予定なし  
♀...妊娠・出産経験なく避妊済み  
体重: 15kg以上  
予防: 狂犬病ワクチン、混合ワクチン(5種以上)  
フィラリア予防、ノミ・ダニ予防  
生活環境: 室内外どちらでも可能

【猫】  
年齢: 1~8歳  
性別: ♂...自然交配経験・予定なし  
♀...妊娠・出産経験なく避妊済み  
体重: 3.5kg以上  
予防: 混合ワクチン(3種以上)、ノミ・ダニ予防  
生活環境: 完全室内飼育  
その他: 猫白血病ウイルス・猫エイズウイルスが陰性(-)であること

献血ドナー登録時検査内容(無料)、  
献血ドナー登録特典等の制度がございます。  
詳細は病院受付or電話(0422-90-4000)or  
メール(donor@nylu.ac.jp)までお問合せください。

No. 11 放射線科

CT・MRIを主体とした画像診断装置を用いて診断や術前評価を行っています。また放射線治療では疾患や症例の状態に応じて適切な治療の提案し治療を行っています。



Staff 獣医師



准教授 彌吉 直子

所属学会:  
日本獣医画像診断学会、日本  
獣医がん学会

年間診療件数:410件(2024年度実績)  
年間CT・MRI検査件数:399件(2024年度実績)  
年間RT検査件数:401件(2024年度実績)

よく紹介されている疾患や症例:

鼻腔内腫瘍、口腔内腫瘍、脳腫瘍の診断及び治療、胸腔内疾患(肺腫瘍、胸腺腫、心基部腫瘍、乳糜胸、心血管奇形など)及び腹腔内疾患(肝臓、副腎、腎臓、膀胱、前立腺、子宮卵巣の腫瘍や炎症性病変、先天性疾患など)の診断、骨・脊椎・脊髄病変の診断など

得意とする診療分野・手技・処置等:

CT、MRI検査と放射線治療を兼務しているため、特に鼻腔内腫瘍や脳腫瘍では診断から治療まで診療科を跨ぐことなくスムーズに進めることができます。また放射線治療は根治から緩和まで目的に応じて幅広い照射プロトコルをご提供しており、入院管理下での治療もお引き受けしています。遠方からの患者様、お仕事でなかなかスケジュールを合わせにくい患者様など、ご要望を伺いながら最適なプランをご相談させていただいております。

コメント:当院は診療科間の連携が良く、初診から診断、治療までをスピーディーに対応できるようにお互いに協力し合って診療しています。また、画像検査のみのご予約にも対応しております。診断や治療方針でお困りの患者様がいらっしゃいましたら、お気軽にお問い合わせください。



助教 杉林 佳代子

所属学会:獣医画像診断学会

年間診療件数:394件(2024年度実績)  
年間CT・MRI検査件数:594件(2024年度実績)  
年間RT検査件数:293件(2024年度実績)

よく紹介されている疾患や症例:

画像診断を要する腫瘍性疾患、血管奇形、脳・脊髄疾患

得意とする診療分野・手技・処置等:

画像診断でのCT・MRI検査と同時に生検を行い確定診断を付けることで円滑に治療に繋がっていきます。放射線治療では疾患のタイプに合わせ様々な治療プロトコルを提案しています。

コメント:画像診断や放射線治療という二次診療施設での特性を活かして、かかりつけの先生方とともに患者さんとその家族に寄り添える診療を心掛けています。検査や治療についてどんな事でもお気軽にご相談ください。

専門治療紹介② 放射線治療

本医療センターでは、放射線治療装置(リニアック)を用いた治療を行っています。

放射線治療装置(リニアック)とは、体の外側から放射線を照射し、がん等の病気を治療したり、痛みを緩和する装置です。X線撮影に使用する放射線の数十倍のエネルギーの放射線を使用します。

2019年1月より本学に導入された新しい放射線治療器には、80対の高精度なマルチリーフコリメータが装備されており、腫瘍の形状に合わせた複雑な照射野を作成することで、出来る限り正常組織への被ばくを防ぎながら腫瘍への照射を行う事が出来るようになりました。また、治療の際に寝台の上でコーンビーム技術による3次元のCT画像を撮影することでポジショニングの誤差を補正し、より正確な位置で照射を行う事が出来るようになりました(IGRT)。

現在は従来のコンベンショナルに加え強度変調放射線治療(IMRT)での照射も多く行っています。IMRTはコンピューターによる線量計算を行うことで、手作業によるプランと比べてより精密な放射線治療が可能となります。これによって、正常組織が受ける放射線を抑えつつ腫瘍に対する効果を維持することができ、治療に伴う合併症の軽減が期待されます。

また、照射部位や疾患によって定位放射線治療(SRT)といった高精度な位置決めを必要とする照射も実施し症例に合わせた様々な治療プロトコルでの治療を行っています。

一放射線治療の対象となる腫瘍(代表例)

- 鼻腔内腫瘍
- 脳腫瘍
- 口腔内腫
- 瘍皮膚肥満細胞腫
- 軟部組織肉腫
- 骨盤腔内腫瘍
- 骨腫瘍(疼痛緩和目的)
- 骨軟骨症 など

一予約方法

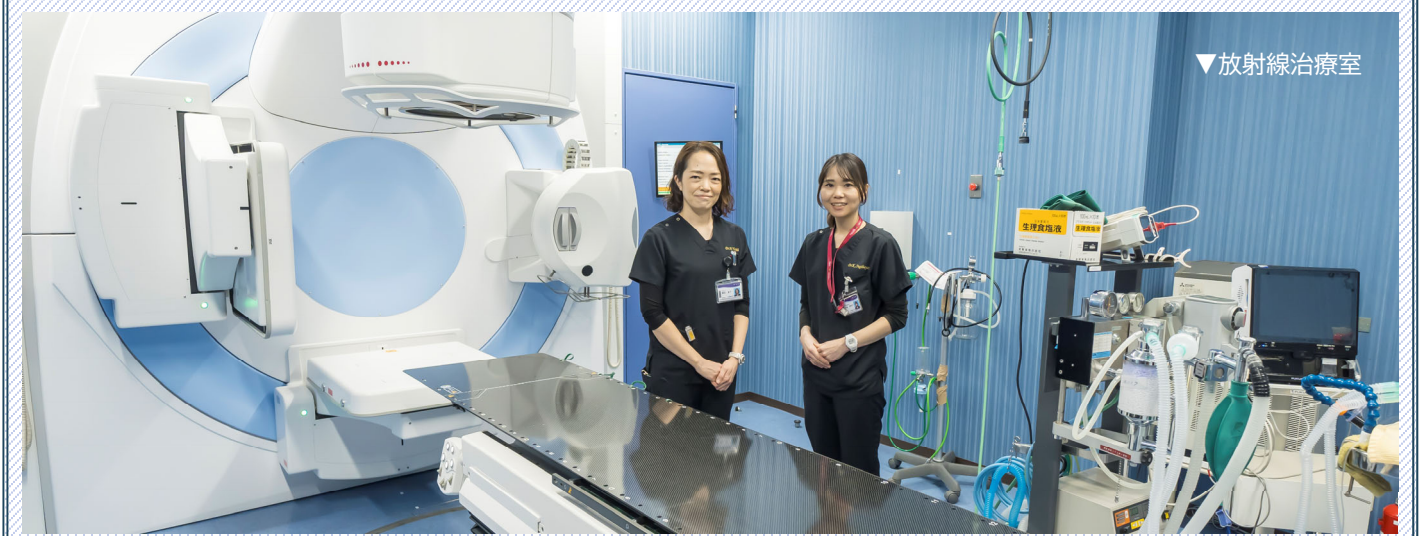
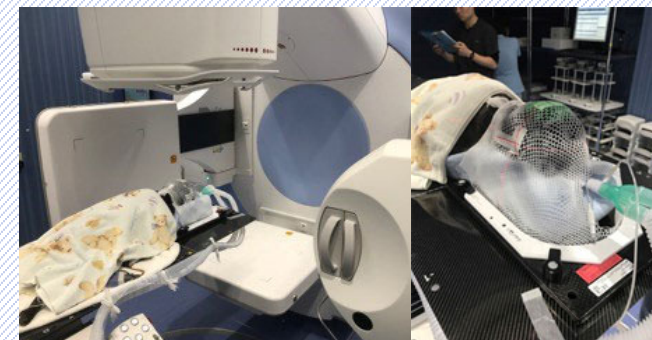
完全予約制となります。治療相談をご希望される方は、必ずかかりつけ医よりお電話にて「放射線治療相談希望」とお伝えいただき、予約をお取りください。

治療相談をご希望される方は、必ずかかりつけ医よりお電話にて「放射線治療相談希望」とお伝えいただき、予約をお取りください。担当医が問診、画像診断や病理診断等の結果から、放射線治療の適応があるかどうか判断します。適応の場合には放射線治療相談の日程をお伝えします。

↓  
放射線治療相談として患者様は本学を受診。診察し治療効果、プロトコル、副作用や合併症、費用についてご説明します。来院時には紹介状以外に必要な血液検査結果、画像データ、術中写真等をご持参ください。

↓  
適応の場合には放射線治療を行う前に治療計画用のCT画像撮影、固定具を作成します。そのため、治療開始までに1~2週間程度の準備期間を必要とします。

↓  
治療は週1~5回の頻度で約1ヶ月間行われます。照射時は毎回、全身麻酔下で1回約5分程度放射線を照射します。※治療期間中は外来通院を基本としていますが、必要に応じて入院対応もしています。お気軽に担当医にご相談ください。



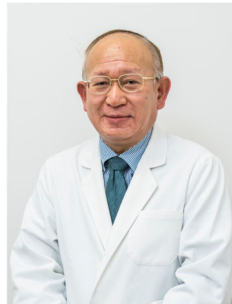
▼放射線治療室

No. **12** **整形外科**  
外科系

骨折、関節疾患、靭帯断裂、脊椎疾患、椎間板ヘルニア、脳腫瘍など  
運動制御系・効果系器官の診断と治療を行っています。



Staff **獣医師**



**教授 原 康**

所属学会：  
日本獣医麻酔外科学会、  
獣医神経学会、動物臨床  
医学会、日本獣医師会、  
日本獣医学会

年間診療件数:548件(2024年度実績)

年間手術件数:111件(2024年度実績)

よく紹介されている疾患や症例:

犬猫の脳神経外科領域ならびに整形外科領域の疾患のなかで、手術適応となる症例

得意とする診療分野・手技・処置等:

**【脳神経外科領域】**犬猫の下垂体腫瘍:下垂体切除術(TSS)、犬猫の頭蓋内髄膜腫:腫瘍摘出術、水頭症:脳室腹腔短絡術(VPS)、頭頸接合部形成異常(CJA)、外科的脊椎脊髄疾患(SSD)[環軸椎不安定症(AAI)、椎間板疾患/脊椎不安定症/脊椎形成異常]:脊髄減圧/脊椎再建術、脊椎/脊髄/末梢神経腫瘍

**【骨外科領域】**長管骨の原発性骨腫瘍:液体窒素処理自家骨を使用した患肢温存療法(LNTA-LSS)、骨折後癒合不全:骨移植を使用した長管骨再建術

**【関節外科領域】**犬の股関節形成不全罹患:三点/二点骨盤骨切り(TPO/DPO)、人工関節を使用した股関節全置換術(THR)、犬の前十字靭帯疾患:機能的安定化手術(TPLO/CCWO)、犬の膝蓋骨脱臼:関節再建術

コメント:これまで小動物外科臨床歴35年間の中で、2500症例の手術実績があります。動物の病状の回復を最優先とし(Patient-first)、小動物臨床領域における最新の知見に基づいて、そして飼い主様の要望を考慮した最良の対応を行うことを信条としています。

年間診療件数:269件(2024年度実績)

年間手術件数:42件(2024年度実績)

よく紹介されている疾患や症例:

膝蓋骨脱臼、前十字靭帯断裂、橈尺骨骨折、骨癒合不全、股関節脱臼、変形性関節症、椎間板ヘルニア、環軸椎亜脱臼、馬尾神経症候群

得意とする診療分野・手技・処置等:

①膝蓋骨内方脱臼の診断と外科的治療には未開拓な話題が多く残されており、臨床研究のテーマの一つとしています。特に骨格変形が疑われる症例に対しては事前にCT検査を行い、そのデータをもとに3Dプリンタで実寸大の骨格モデルを造形し、矯正骨切り術の術前シミュレーションに活用しています。

②犬の前十字靭帯断裂に対しては主にTPLO法を用いて手術しています。小型犬では膝蓋骨内方脱臼と前十字靭帯断裂が併発している症例も多いため、そのような症例に対しては膝蓋骨内方脱臼に対する手術とTPLO法を同時に実施することもあります。

③骨癒合不全症例に対しては、オステオファーマ社製BMP-2(骨形成タンパク質)を用いた骨再生治療(臨床研究)を実施しています。BMPの骨形成能は非常に高いため、骨癒合不全でお困りのケースはぜひご相談ください。

コメント:外科医の手術技能レベルを評価する最も適した方法は、その執刀医の手術を実際に見学することです。私の場合、ご紹介いただいた症例の手術見学は常にオープンにしておりますので、ご興味のある先生はいつでもご連絡ください。また手術中の重要な場面に関しては、オートクレーブ滅菌可能なカメラケースとリングライトを使用して適切に撮影し、手術所見報告書を作成しています。文字だけの報告書では伝わりにくい情報が鮮明に記録されていますので、是非一度ご覧ください。



**准教授 原田 恭治**

所属学会：  
日本獣医麻酔外科学会、  
AO VET、獣医神経学会、  
日本獣医再生医療学会、  
日本獣医学会、日本臨床バイオ  
メカニクス学会、日本ロボット学会



facebook



**講師 神野 信夫**

所属学会：  
日本獣医麻酔外科学会、日本  
獣医学会、東京都獣医師会

年間診療件数:837件(2024年度実績)

年間手術件数:104件(2024年度実績)

その他実施している診療・業務等:

獣医整形外科及び獣医麻酔の講義、実習、ゼミ、研究活動

よく紹介されている疾患や症例:

犬と猫の後肢跛行、特に前十字靭帯損傷と膝蓋骨脱臼を多くご紹介いただきます。一方で、四肢骨折、椎間板ヘルニアや脊髄腫瘍、環軸椎不安定など緊急を要する疾患の場合は総合診療科と協力し、可能な限りの即時受け入れを心がけています。

得意とする診療分野・手技・処置等:

膝蓋骨内方脱臼に前十字靭帯が併発している、さらには骨の変形が伴っているなど複合的な関節疾患患者に対し、可能な限りの機能再建を目指しています。また、近年では高齢での手術適応患者も多くなり、通常道理の経過観察では十分な機能回復が得られないことも増えてきています。当科ではリハビリテーション科の宮田先生と協力しながら、術後の経過観察と機能改善にも力を入れています。

コメント:大学病院の強みは総合力です。基礎疾患を有する患者さんや外科治療の適応を悩むことも多々あると思います。まずは一度ご相談ください。お一人お一人に最適な治療法をご提案できればと考えています。



**准教授 宮田 拓馬**

所属学会：  
日本獣医学会、日本動物看護  
学会、日本動物リハビリテ  
ーション学会(副会長)、日本ペ  
ット栄養学会

年間診療件数:136件(2024年度実績)

その他実施している診療・業務等:

学生実習、見学者対応

よく紹介されている疾患や症例:

椎間板ヘルニア手術後の機能回復、大腿骨頭骨頸部切除術後の機能回復

得意とする診療分野・手技・処置等:

整形外科や神経外科の手術後における運動機能の回復を目的とした動物理学療法の実施、ならびに自宅でも実施可能な動物リハビリテーションの指導。飼い主とのコミュニケーションを大切に、飼い主に寄り添ったリハビリテーション指導を得意とする。

コメント:本学において外科手術を実施していない症例においてもご紹介を受け入れております。その他、年齢や疾患に関係なく、運動機能が低下している症例に対する飼い主への指導や本学における理学療法の実施も可能です。手術時の所見等お伺いすることもあります。ご紹介いただきます病院と飼い主の輪の中に入り、症例が少しでも生活が楽になる手助けができればと考えておりますので、気軽にご相談いただければと思います。なお、本学で実施可能な理学療法としては、小型犬～中型犬における水中歩行訓練、ポール跨ぎ等の陸上での運動療法、低周波治療、超音波治療、経皮的吸引による筋膜リリースとなります。

**専門治療紹介③ 動物リハビリテーション**

リハビリテーションとは、本来あるべき状態へ身体機能を改善させ、少しでも快適な日常生活を過ごせるように、生活の質を向上させる手段です。リハビリテーションには、運動機能を改善させるために実施する理学療法他、栄養管理や動物看護の要素も多く含まれます。薬や手術などで症状の改善が早期に回復する治療法とは異なり、どうしても時間をかけて継続していく必要もあります。そのため、症例の状態をしっかりと把握して、その症例に必要なリハビリテーションを考え実施していくことが大事ですが、飼い主様にもご自宅で継続して実施していただけるリハビリテーションを考えることも重要です。獣医師、愛玩動物看護師、そして飼い主様とチームとなって、症例の生活の質が少しでも向上できるよう本医療センターでは動物リハビリテーションに取り組んでいます。

**一対象となる症例**

- ・整形疾患や神経疾患の機能改善(手術後も含む)
- ・高齢動物の日常生活改善 など

\*手術の内容や状態によっては、リハビリテーションを実施することで悪化させてしまうこともあります。また、手術適応の疾患に対して、手術を実施せずにリハビリテーションを実施することで、動物へ苦痛を与えてしまう場合があります。治療すべき疾患がある場合には、その治療と一緒にリハビリテーションを考えた方が良いこともありますので、かかりつけ医にご相談ください。

**一治療の流れ**

担当医が症状や状態に応じて、ご自宅で実施可能なリハビリテーションについてご家族の方にご提案いたします。水中療法や専用の装置等を用いたリハビリテーション実施の効果が高いと判断する際には、1回/週～2回/月程度の通院での実施をお勧めいたします。その場合には、診療日の午前中90分程度お預かりして実施させていただきます。なお状態によって治療期間は異なります。当動物医療センターは完全予約制となっておりますので、治療相談を希望される方はかかりつけ医よりお電話にてご予約をお取りください。

No. 13 産科・生殖器科 外科系

動物の交配・妊娠・出産に関わることを扱っています。



Staff 獣医師



年間診療件数:18件(2024年度実績)

その他実施している診療・業務等:

凍結精液の作成

よく紹介されている疾患や症例:

犬及び猫の生殖器疾患の診断・治療(子宮蓄膿症、卵胞嚢腫、卵巣腫瘍、潜在精巣、精巣腫瘍など)、犬の交配適期の診断、犬の人工授精(新鮮精液、凍結精液)、犬の不妊症の治療、流産の予防・治療、帝王切開(難産の対応)

得意とする診療分野・手技・処置等:

産科・生殖器に関する問題への対応及び疾患の診断・治療を得意とします。特に、ホルモン検査による犬の交配適期の診断、新鮮精液及び凍結精液を用いた腔内及び子宮内人工授精手技に関しては得意としています。

コメント:産科・生殖器科の中でも、特に産科に力を入れて診察を行っております。繁殖希望している飼い主(ブリーダー含む)への対応を行います。犬の不妊の多くは、交配適期の判断ミスや雄犬の精液性状が悪いことに原因があることが多いため、これらの問題解決に対応します。特に、犬の交配適期を判断および人工授精に関しては、診療日に関係なくできる限り対応いたします。卵巣、子宮、腔などの雌動物の生殖器疾患には、外科的な対応ではなくホルモン剤を使用した内科的な治療が可能なこともあります。これらの疾患も対応いたしますので、ご相談いただければと思います。

教授 堀 達也

所属学会: 日本獣医学会(評議員)、日本繁殖生物学会、動物臨床研究所(顧問)



年間診療件数:110件(2024年度実績)

年間手術件数:20件(2024年度実績)

よく紹介されている疾患や症例:

新鮮精液または凍結精液における人工授精(腔内・子宮内)による繁殖及び不妊治療、雄性生殖器(精巣・前立腺・陰茎など)及び雌性生殖器(卵巣・子宮・腔・外陰部など)に関する先天性・後天性疾患の診断及び治療

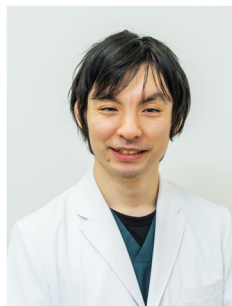
得意とする診療分野・手技・処置等:

精液採取、精液性状検査、性ホルモン検査を通じて、雄性・雌性不妊の原因を追求していきます。本院は救急病院ではありませんので限界はありますが、帝王切開も必要に応じて行っております。また、生殖器病の内科的または外科的対応を行います。

コメント:繁殖はタイミングが大事です。産科・生殖器科の診療日は毎週水曜としておりますが、可能な限り必要に応じて、他の曜日(夜間を除く)での診療を行っておりますので、まずはご相談いただければと思います。生殖器病についても、患者様、紹介病院様と連携して治療を行っていただければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

准教授 小林 正典

所属学会: 日本獣医学会獣医繁殖分科会(評議委員)、動物臨床研究所生殖器・繁殖分科会(顧問)、日本繁殖生物学会



年間診療件数:81件(2024年度実績)

年間手術件数:18件(2024年度実績)

よく紹介されている疾患や症例:

人工授精、不妊症、卵巣遺残症候群、潜在精巣、生殖器疾患

得意とする診療分野・手技・処置等:

精液採取及び精液検査、凍結精液を用いた人工授精

コメント:犬猫の不妊治療や助産指導、人工授精を行っております。また、繁殖だけではなく生殖器に関連した疾患の治療、麻酔が困難な患者の避妊去勢手術も対応しております。とくに、避妊手術を行なったにもかかわらず発情が帰帰する卵巣遺残症候群に対しては、画像検査やホルモン検査による残存卵巣の確認と卵巣摘出による治療を行っておりますので、ご相談いただければと思います。

講師 小林 正人

所属学会: 日本獣医学会、生殖免疫学会、獣医がん分子生物学研究会

No. 14 軟部外科 外科系

Staff 獣医師



年間診療件数:237件(2024年度実績)

年間手術件数:50件(2024年度実績)

よく紹介されている疾患や症例:

心臓血管外科手術、胸部外科疾患、カテーテル手術

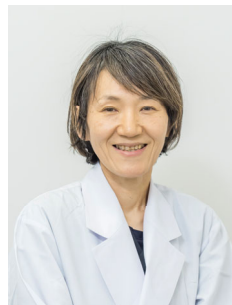
得意とする診療分野・手技・処置等:

心臓疾患、血管疾患、軟部外科全般

コメント:体外循環を使用した心臓外科手術、ペースメーカー埋め込み術、カテーテルを使用した心臓手術に取り組んでいます。その他、血管の外科手術(門脈シャント、血栓除去)も行っています。心臓や血管に関する病気で困りのことがあれば外科・内科問わず対応しますので、お気軽にご相談ください。診療・手術の際に心がけていることは、どんな状況でも諦めず、懸命に取り組む、患者さんやそのご家族にとって何が1番良い選択なのかを共に考え実行することです。

講師 鈴木 周二

所属学会: 日本獣医麻酔外科学会、日本獣医循環器学会



年間診療件数:743件(2024年度実績)

年間手術件数:278件(2024年度実績)

その他実施している診療・業務等:

学生実習、研修獣医師の研修指導

よく紹介されている疾患や症例:

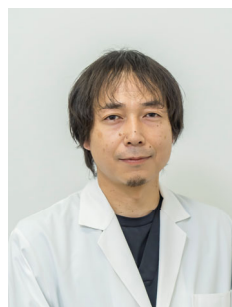
一般外科、消化器外科(肝胆道系含む)、呼吸器外科、口腔外科、耳科外科、下部泌尿器外科など。またこれに関わる腫瘍外科全般などの診断・治療

得意とする診療分野・手技・処置等:

上にあげた軟部外科全般を得意とする。特に耳科外科は耳道腫瘍や慢性化し、内科治療で改善できない耳科疾患に対し多く外科対応している。また外科手術後の合併症に対しても外科だけでなく内科的治療も含めて対応できる。これは状況に応じ内科医と連携をとって行う。

コメント:胃捻転、胆管閉塞や胆嚢破裂などの肝胆道系疾患や腫瘍を伴う脾臓破裂などの緊急対応の必要な外科対応が必要な場合はできる限り対応をします(土日祝、夜間は難しいですが)。すべてのご紹介いただきました外科症例はなるべく早く必要に応じ画像検査から外科手術の対応まで迅速に進めていきます。可能であれば診療同日中に画像検査を行い、緊急であれば同日に手術対応もできます。また内科疾患も併発の症例には内科医と連携をとって診断・治療を進めていきます。

講師 安田 暁子



年間診療件数:344件(2024年度実績)

年間手術件数:151件(2024年度実績)

その他実施している診療・業務等:

献血ドナー対応

よく紹介されている疾患や症例:

軟部外科・腫瘍外科疾患

得意とする診療分野・手技・処置等:

胸部外科、消化器外科、泌尿器外科、内分泌外科を含む体表、胸部、腹部、四肢の軟部外科疾患

コメント:飼い主様と入念に話し合い、その子にとって最良の治療を一緒に考えたいと思います。

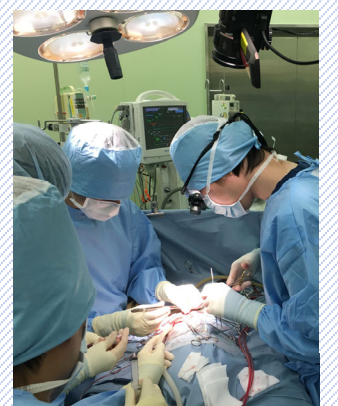
専門治療紹介④ 心臓血管外科手術

本医療センターでは、人工心肺装置を用いた外科手術に(開心術)に取り組んでいます。僧帽弁閉鎖不全症(弁膜症)は小型犬の心臓疾患でもっとも多い心疾患です。本学では弁膜症に対する弁形成術を行うことができる数少ない施設です。

一対象となる症例

僧帽弁閉鎖不全症、三尖弁異形成症、肺動脈狭窄症、心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、ファロー四徴症、その他先天性心疾患、心臓腫瘍 など

その他、動脈管開存症に対する動脈管結紮術、カテーテルインターベンション、徐脈性不整脈に対するペースメーカー治療なども実施が可能です。詳しくは担当医にご相談ください。





No. 15 脳神経外科  
外科系

脳腫瘍や水頭症などの脳外科疾患の診断と治療を行っています。

Staff 獣医師



教授 長谷川 大輔

所属学会:  
獣医神経学会(理事)、  
日本てんかん学会(評議員)、  
日本獣医学会(評議員)、  
アジア獣医内科学会(神経科専門医)、  
日本てんかん外科学会

年間診療件数:337件(2024年度実績)

年間手術件数:12件(2024年度実績)

その他実施している診療・業務等:

神経科(脳神経内科)、脳波検、脳脊髄液検査

よく紹介されている疾患や症例:

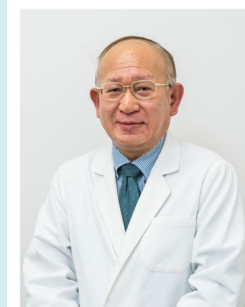
てんかん、脳腫瘍、脳炎、認知症などの脳疾患

得意とする診療分野・手技・処置等:

脳波、画像を駆使したてんかんの診断と薬剤抵抗性てんかんに対するてんかん外科、脳腫瘍の診断と手術、脳炎の診断と治療といった脳疾患の診療を中心に様々な神経疾患の診療を行っています。

コメント:判りにくいと思われる神経疾患を判りやすく説明し、飼い主の納得のいく診断・治療を行っています。脳外科手術が得意ですが、なんでも手術というわけではありません。内科と外科のバランス、患者の状態、飼い主の要望などを考慮した診断・治療を提案していきます。

長谷川教授が担当する脳神経科(脳神経外科・神経科)外来診察日は、**金曜日午前**のみです。  
初診予約についての詳細は、P.27をご参照ください。



教授 原 康

所属学会:  
日本獣医麻酔外科学会、  
獣医神経学会、動物臨床医学会、  
日本獣医師会、日本獣医学会

年間診療件数:548件(2024年度実績)

年間手術件数:111件(2024年度実績)

よく紹介されている疾患や症例:

犬猫の脳神経外科領域ならびに整形外科領域の疾患のなかで、手術適応となる症例

得意とする診療分野・手技・処置等:

【脳神経外科領域】犬猫の下垂体腫瘍:下垂体切除術(TSS)、犬猫の頭蓋内髄膜腫:腫瘍摘出術、水頭症:脳室腹腔短絡術(VPS)、頭頸接合部形成異常(CJA)、外科的脊椎脊髄疾患(SSD)[環軸椎不安定症(AAI)、椎間板疾患/脊椎不安定症/脊椎形成異常]:脊髄減圧/脊椎再建術、脊椎/脊髄/末梢神経腫瘍

【骨外科領域】長管骨の原発性骨腫瘍:液体窒素処理自家骨を使用した患肢温存療法(LNTA-LSS)、骨折後癒合不全:骨移植を使用した長管骨再建術

【関節外科領域】犬の股関節形成不全罹患:三点/二点骨盤骨切り(TPO/DPO)、人工関節を使用した股関節全置換術(THR)、犬の前十字靭帯疾患:機能的安定化手術(TPLO/CCWO)、犬の膝蓋骨脱臼:関節再建術

コメント:これまで小動物外科臨床歴35年間の中で、2500症例の手術実績があります。動物の病状の回復を最優先とし(Patient-first)、小動物臨床領域における最新の知見に基づいて、そして飼い主様の要望を考慮した最良の対応を行うことを信条としています。



No. 16 眼科  
外科系

特に、結膜炎・角膜炎・失明疾患に力を入れています。

Staff 獣医師



講師 余戸 拓也

所属学会:日本獣医学会、  
比較眼科学会、  
獣医麻酔外科学会、  
Asian Society of Veterinary  
Ophthalmology

年間診療件数:117件(2024年度実績)

年間手術件数:4件(2024年度実績)

よく紹介されている疾患や症例:

角膜潰瘍、眼瞼内反症、チェリーアイ、ドライアイ、失明など

得意とする診療分野・手技・処置等:

当院獣医眼科は、犬・猫の失明リスクを伴う重篤な眼疾患から、早期対応が求められる角膜潰瘍、チェリーアイ、重度ドライアイまで、幅広い診療を行っています。特に以下の領域を得意としています。

・チェリーアイや重度ドライアイに対する幹細胞療法

従来の点眼や手術だけで改善しにくい症例にも、最先端の幹細胞移植による再生医療を実施。涙腺機能の回復と結膜・角膜の健康維持を図ります。

・失明リスクを伴う疾患・角膜潰瘍

早期の診断と集中的な治療で視覚機能の温存を目指します。緊急性の高い角膜穿孔予防や抗菌・抗炎症治療に加え、必要時には外科的処置にも対応。

・眼科×神経科・皮膚科の連携診療

眼球周囲の腫瘍や神経障害、皮膚疾患に伴う眼症状は、単科的な治療では見落としがちです。当院では神経科・皮膚科と密に連携し、性差や基礎疾患も踏まえた総合的なアプローチを行います。

コメント:継続的な治療サポート

ご紹介いただいた原因疾患を的確に把握し、初期治療から長期管理まで、一貫したプランでフォローします。

紹介元の先生との情報共有を重視し、定期検査や治療効果の評価を丁寧に行うことで、最善の視覚ケアを提供いたします。お気軽にご相談ください。専用の診察室と専用の機器を備え、動物たちの快適な視覚を取り戻すお手伝いをいたします。

臨床研究

愛犬のドライアイの治療に新たな希望を!

犬のドライアイ(乾性角結膜炎)の幹細胞による新しい治療法(治験)に関するお知らせ

2026年11月20日までの期間で、乾性角膜炎犬に対する犬脂肪由来間葉系幹細胞を用いた治験を行っています。  
この研究は、難治性のドライアイに対して、脂肪由来間葉系幹細胞を用いた点眼治療の効果を調べるものです。

原則として、治療開始前に受診いただき動物の状態等を診察させていただく必要があります。幹細胞治療に関する詳細(治療費や治療回数など)は受診時に担当医へご確認ください。

## 麻酔科

### Staff 獣医師



#### 講師 関 瀨利

所属学会：日本獣医麻酔外科学会（委員）、日本獣医学会、日本獣医循環器学会、動物臨床医学会

年間手術麻酔件数：326件（2024年度実績）

その他実施している診療・業務等：

集中治療

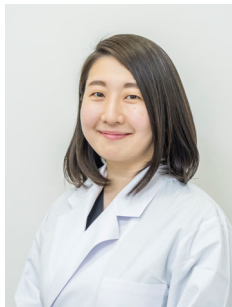
よく紹介されている疾患や症例：

基礎疾患を持つ犬及び猫の検査・手術に伴う全身麻酔管理、緊急手術時の麻酔管理

得意とする診療分野・手技・処置等：

麻酔・疼痛管理全般を得意とする。集中治療に関わることも多いため、人工呼吸管理や循環管理を得意とする。

コメント：紹介病院へのコメント：獣医療の高度化による動物の高齢化によって腫瘍疾患や循環器疾患を伴う症例の紹介が増えております。こうした基礎疾患や症状から全身麻酔管理に心配があり、そのリスクから検査や外科手術に移行できないと判断される場合にはご相談ください。当医療センターでは内科医、外科医、動物看護師の全員で安全な麻酔管理に努めております。特に専門的な知識、技術が必要となる高難度麻酔の症例に関しましては麻酔科の獣医師が対応いたします。



#### 助教 三浦 香奈

所属学会：日本獣医麻酔外科学会

年間手術麻酔件数：480件（2024年度実績）

その他実施している診療・業務等：

獣医学生・留学生病院実習での麻酔指導、研修獣医師への麻酔補助

よく紹介されている疾患や症例：整形外科・軟部外科・脳神経外科の手術麻酔、循環器科の手術・カテーテル治療の麻酔、呼吸器科・消化器科の内視鏡検査麻酔、CT/MRI検査麻酔、歯科処置麻酔、診察来院時の鎮静処置など

得意とする診療分野・手技・処置等：

動物の負担を最小限にとどめるよう、症例の状態に合わせたマルチモーダルな麻酔管理や、疼痛管理を心がけ、神経ブロックにも力を入れております。

コメント：ご紹介いただきました症例に必要な検査や処置、手術が行えるよう、麻酔の面からサポートして参ります。麻酔リスクが心配な症例に関しましては頂戴した症例情報を含めしっかりと主治医と連携し安全な麻酔管理に注力して参ります。

## 動物看護部

専従愛玩動物看護師 17名  
（外科系9名、内科系8名）



### Staff 愛玩動物看護師 ※学部教員



#### 講師 生野 佐織



#### 助教 秋山 蘭

その他実施している診療・業務等：

献血ドナーの受入管理等、医療材料等の在庫発注管理

得意とする診療分野・手技・処置等：

外科班は外科系診療科の診療補助と、手術における滅菌管理や手術における補助看護業務全般を実施。

内科班は内科系診療科の診療補助皮膚疾患に対する薬浴と、CTやMRI、内視鏡における画像検査、放射線治療における補助看護業務を実施。

また、外科班、内科班関係なく、集中治療室や入院動物室における看護業務全般を実施。

コメント：飼い主さまと直接関わらせていただく機会は入院の面会時や一部診療科における診療補助の際など限られてはいますが、ご紹介いたします。症例に対して最善の動物看護実践ができるように努めております。また飼い主さまとのコミュニケーションを大切に取組んでいます。

## ◆ 獣医師卒後臨床研修制度



### Staff 研修獣医師

アドバンス臨床研修獣医師

吉田 琉璃、新井 淑斗、羽成 直己、山田 江美子

後期臨床研修獣医師

岡野 周志、西村 咲、小池 遥太、関根 帆南、中尾 大城、飯野 章太郎、名倉 愛紗香、柳井 優里、中原 涼、竹吉 真祐子、西木 夏帆

前期臨床研修獣医師

大塚 堂允、杓木 章馬、村田 由彩、西村 然、原田 佳保



#### アドバンス臨床研修獣医師 山田 江美子

アドバンス臨床研修獣医師では専攻する診療科を選択する制度があり、私は総合診療科と脳神経外科を選択しました。総合診療科では多様かつ重度な症例に向き合い、幅広い視点から病態を把握し、治療を見据えた診断技術を習得しました。脳神経外科では問診、神経学的検査を基盤に画像検査へ進み、診断精度を高めていく過程を学びました。2次病院ならではの豊富な症例を通じ、実践的に診断から治療方針の決定までを一貫して経験できるため、臨床推論力を深く養い専門性を磨くには最適な環境です。



#### 後期臨床研修獣医師 柳井 優里

前期・後期臨床研修獣医師では、麻酔科・外科・内科の3タームを4週間ごとに交代して診察するため、各分野に集中的に取り組める体制が整っています。特に麻酔科タームでは、ほぼ毎日麻酔管理を経験することで、実践的な知識と技術を着実に身につけることができました。また、主治医の先生方の関係が良好で診療科を跨いで相談しやすい環境も大きな魅力です。新卒で不安も多い中、温かく丁寧に指導いただき、確かな成長を実感できました。

2019年度より研修制度が変わりました。

研修期間が2年間（前期課程1年間・後期課程1年間）となり、研修修了者の中から、さらに研修期間1年間のアドバンス課程に進むことができます。

	前期・後期プログラム	アドバンス研修プログラム （希望者のみ）
研修の方式	基本的に内科及び外科診療のローテーション方式で実際の臨床事項を研修する総合診療形式	専門分野別に研修を行う形式
研修カリキュラムの具体的事項	①動物の取り扱い方 ②ご家族とのコミュニケーション ③すべての臨床獣医師に求められる共通の臨床能力 ④動物の状態を正しく把握し、生命維持に必要な的確な処置 ⑤診療に必要な情報収集、検査・診断計画、治療計画の作成並びに実施 ⑥慢性疾患に対する医事管理上の要点の把握 ⑦すべての情報、診療内容についての正しい記録	各専門分野ごとに、研修目標に到達できる期間を設定し、各専門分野の特色を活かした、より専門的なカリキュラムで実施する。なお、専門分野は、複数にわたって選択することも可能である。

## ◆ 受診の流れ ～動物病院の先生方へ～

当センターは2次診療施設のため、原則としてかかりつけの動物病院様からのご紹介を通してご予約いただき、診療を行っています。

当センターをご紹介いただく際は、下記「受診の流れ」をご参照のうえ、お電話にてご予約いただきますようお願い申し上げます。

なお、紹介状がない場合でも、土曜日の総合診療科に限り診療を受け付けておりますが、別途特別料金の発生や、当日の手術対応等について十分な処置が出来ない場合があることをご理解いただきますようお願い申し上げます。

[放射線治療のご予約について]

放射線治療をご希望される場合は、必ずかかりつけ医よりお電話にて**放射線治療科**のご予約をお取りください。**腫瘍内科の外来とは別のご予約**となりますのでご注意ください。

### 1) 予約日時の電話

飼い主様と受診日時をご調整いただき、ホームドクター様から当院宛にお電話のうえ、ご来院日時をご予約ください。

予約専用ダイヤル  
**TEL: 0422-90-4000**

診療時間  
平日 9:00-16:00  
土曜 9:00-15:00

紹介状(Excel)



紹介状(PDF)



### 2) 紹介状の作成

紹介状フォーマットをダウンロードいただき、ご記入をお願いいたします。

紹介状

### 3) 紹介状の送信

メールまたはFAXで当院宛にお送りください。

メールの場合、件名欄に紹介する「**患者名**」を記入してください。

メール **iryocenter@nvl.ac.jp** FAX **0422-34-8210**

※貴院での検査データ等がある場合は、紹介状とともに当院宛にお送りください。

CDデータ等の場合はオーナー様にお渡しいたき、当日ご持参くださいますようお願いいたします。

### 4) 診療申込書及び問診票の事前記入

初診の診察前に、**飼い主様**に「診療申込書(計3枚)」及び「問診票(計2枚)」をご記入いただいております。来院してからスムーズに診察をお受けになれますので、飼い主様がお分かりになる範囲でご記入いただき、当日持参するようお願いいたします。

診療申込書(PDF)



問診票(PDF)



### 5) 診療

送っていただいた紹介状をもとに、当院にて診察を行います。

なお、MRI検査、CT検査、内視鏡検査など全身麻酔を必要とする検査については原則、初診の診察日当日には行いませんのでご注意ください。

診療スケジュール



「受診の流れ」  
本学ホームページは  
こちらからどうぞ



## ◆ 脳神経外科・神経科(担当医:長谷川教授)のご予約について

長谷川教授が担当する脳神経科(脳神経外科・神経科)外来診察日は、**金曜日午前のみ**です。  
また、初診の予約は以下になっておりますので、ご予約を検討されている方は以下の点についてご承知ください。

- ① **外来診察(金曜日)の初診で、その日にMRIや脳波検査を行う事はありません。**  
また、MRIや脳波等の検査の必要性や検査の可否については当方の判断とさせていただきます。紹介元の先生と飼い主様にはその事をよくご理解、ご承知ください。  
※画像検査のみをご希望の場合は当医療センター放射線科または他の検査センター等をご利用ください。
- ② **すでに他施設等でMRI検査等が済み、脳腫瘍等や難治性てんかんといった診断がなされ、その脳外科手術についてのご希望、ご相談は上記の外來診察予約ではなく、直接下記脳神経科のメールアドレスへメールにてご連絡ください。**返信メールにて外来診察とは別に相談日/診療日を設けます。

### ● 脳外科手術へのお問合せ先:vet.clin.neuro.nvl@gmail.com

※長期出張等で不在の場合を除き、数日内には神経科スタッフよりご返信いたします。

なおこのメールアドレスへ②の目的以外の症例相談や予約の受付については返信いたしませんのでご了承ください。

## ◆ お支払い方法について

- 当センターでは、診療費のお支払いに現金の他、クレジットカードもお使いいただけます。なお、クレジットカードのタッチ決済や、交通系・QRコード系などの各種電子マネーはご利用いただけません。

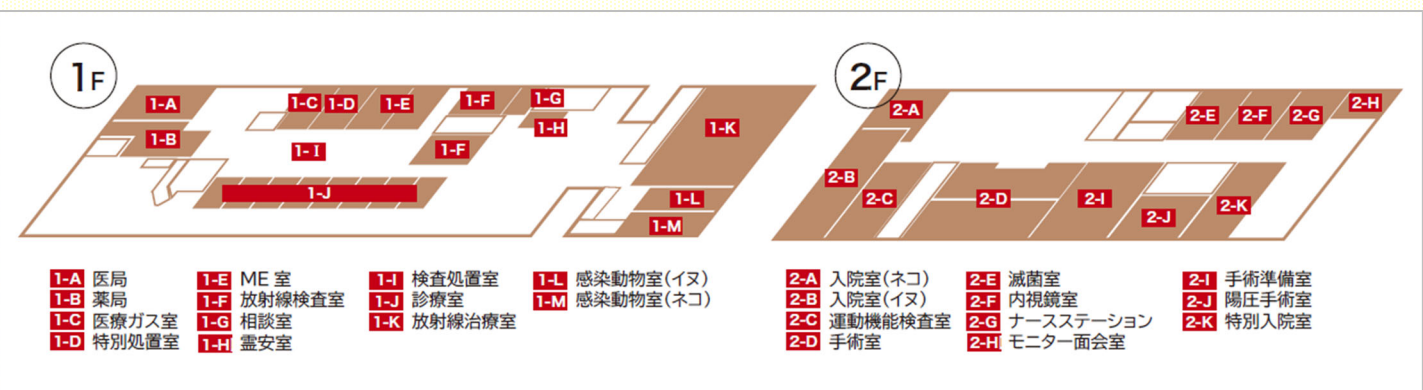


- クレジットカードは、JCB、VISA、MasterCard、MUFG、DC、UFJ、NICOS、American Express、Diners Club、DISCOVERがご利用可能です。クレジットカードは、1回もしくは3回以上、リボ払いが可能です。2回払い、ボーナス払いはできません。
- 現金での分割払いはできません。
- クレジットカードと現金の併用は原則できません。ただし、一部適応可能な場合がありますので、ご相談ください。
- 会計は当日16時までとなっています。これ以降に診察が終了した場合は、次回来院時もしくは平日(16時まで)に受付にてお支払いいただくか、翌月中旬以降に振込用紙郵送となります。振込用紙でのお支払いの場合、手数料は飼い主様負担となります。

## ◆ ペット保険について

- 当センターは、ペット保険と連携しておりません。一旦全額お支払いいただき、飼い主様ご自身で保険会社に請求していただく流れとなります。
- 保険請求に診断書が必要な際は、担当獣医師にお申し付けください。なお、その場合、文書作成料を別途いただいております。
- 個々の保険会社の書類に当センターの獣医師が記入することは対応しかねますので、当センターの診断書もしくは領収書をもってして代用していただける保険会社に限り。まずはご加入の保険会社に領収書の他に診断書が必要かどうか、当センターの書式でも代用できるかどうかをご確認ください。

## フロアマップ



# ——いのちを学び、命を守る

当センターは2次診療施設のため、原則としてかかりつけの動物病院様からのご紹介を通してご予約いただき、診療を行っています。

当センターをご紹介いただく際は、「受診の流れ」をご参照のうえ、お電話にてご予約いただきますようお願い申し上げます。

なお、紹介状がない場合でも、診療を受け付けておりますが、別途特別料金の発生や、当日の手術対応等について十分な処置が出来ない場合があることをご理解いただきますようお願い申し上げます。

## ACCESS

JR中央線、西武多摩川線、武蔵境駅下車、  
第一校舎は南口より徒歩2分。第二校舎は北口より徒歩7分。  
(動物医療センターは第一校舎へ)



日本獣医生命科学大学  
NIPPON VETERINARY AND LIFE SCIENCE UNIVERSITY

附属動物医療センター

〒180-0023 東京都武蔵野市境南町1丁目7-1 C棟(動物医療センター)  
TEL:0422-90-4000 e-mail: iryocenter@nvl.ac.jp

大学HP



附属動物医療  
センターHP

